

第2学年 国語科学習指導案

日時 令和5年10月6日(金) 6校時

児童 2学年 10名

授業者 阿部 美子

1 単元名 そうぞうしたことを、音読げきであらわそう

2 学習材名 『お手紙』(光村二年下)

3 単元について

児童は、1年「やくそく」「くじらぐも」「たぬきの糸車」や2年第1単元「ふきのとう」で場面の様子を人物がしたことや出来事に気を付けて捉えたり、想像を広げたりしながら読むという学習を繰り返し行っている。1年「おおきなかぶ」では動作を加えて音読し、「ふきのとう」では、音読発表会をゴールとし、役になりきるために文章を読み取っていった。

本単元では、お話にある言葉や絵から人物の行動と様子を詳しく読み、読み取ったことを文章の読み方や動きの工夫につなげ音読劇をする活動を行う。本作品は、二人の登場人物の行動を中心に、場所や時間の移り変わりがはっきりと描かれている。友達どうしの心の交流に、共感しながら読み進めることができるだろう。また、文章の言葉を手がかりにしながら会話の際の二人の位置、距離、しぐさ等を考えることで、二人の心情を想像できるようにしていく。自分の考えた心情を音読劇という形で共有する活動を行うことで、それぞれの感じ方や考え方を知り認め合うこともできると考える。

本単元に関わる指導事項は、読むこと「エ場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。」である。

指導にあたっては以下の2点に留意する。

手立て1に関わって

- ・学習のゴールを「2年生みんなで作ろう『お手紙』のげき」とし、場面ごとに登場人物の会話や行動をまとめ、それらを基に音読劇にまとめる活動を行う。
- ・単位時間の課題に沿って振り返りができるように観点を示す。

手立て2に関わって

- ・登場人物の行動や会話に着目して登場人物の心情を具体的に想像させ、自分の考えを伝え合う対話的活動を設定する。
- ・児童間の発言がつながるように、発言の型や話す観点・聞く観点を提示する。

4 単元の目標

○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。〔知〕(1)ク

◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。〔思〕C(1)エ

○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。〔思〕C(1)カ

○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 (1)ク	① 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 C(1)エ ② 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。 C(1)カ	① 挿絵や場面ごとの様子に着目して登場人物の行動を想像し、進んで学習課題に沿って音読劇に取り組もうとしている。

6 単元の指導計画（全11時間扱い）

時	学習活動	◆研究に係わる手立て ・指導上の留意点	評価【 】〔方法〕
1	○学習のゴールを示し、これからの学習の見通しをもつ。 ・単元の学習の見通しをもつ。 ・学習計画を立てる。	◆学習のゴールを共有し、学習計画を立てる。 (手立て1) ・登場人物のしたことや出来事を中心に、初発の感想を交流することができるようにする。 ・「音読劇発表会」をする、という単元のゴールを共有する。	
そうぞうしたことを、音読げきであらわそう			
2	○登場人物のしたことや出来事を中心に、話の流れを確かめる。 ・全文を読む。	・はじめと終わりの2枚の挿絵を比較することで、作品の構成を理解できるようにする。	
3	○場所や登場人物の行動を手がかりに場面分けをする。	・場面分けをするために挿絵を提示する。 ・それぞれの会話文に色別のシールを貼ることで、話者が意識できるようにする。 ・場所を比較検討の観点として提示する。 ◆文章構成を捉えさせるための意図的な発問をする。(手だて2)	
4	○1場面のかえるくんやがまくんの行動を具体的に想像する。 ・お手紙を待つがまくんの気持ちやそれを聞くかえるくんの気持ちを捉え、音読に生かす。	・二人の立場や気持ちを理解するために、人物の会話や行動に着目して役割読みができるようにする。	【思①】場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像しているか確認する。〔発言・記述〕
5	○2場面のかえるくんの行動を具体的に想像する。 ・かえるくんの言葉や行動に注目して気持ちを捉え、音読に生かす。	・かえるくんの言動を動作化することで、気持ちを考えることができるようにする。	【知①】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読しているか確認する。〔音読〕
6	○3場面前半のかえるくんとがまくんの行動を具体的に想像する。 ・がまくんとかえるくんの会話から二人の気持ちを捉え、音読に生かす。	・挿絵を見たり、かえるくんやがまくんの言動を動作化したすることで、気持ちを考えることができるようにする。	
7 本 時	○3場面後半のかえるくんとがまくんの行動を具体的に想像する。 ・かえるくんの思いとがまくんの気持ちを捉え、音読に生かす。	・挿絵の表情や会話文に着目し、動作化することで、気持ちを考えることができるようにする。 ◆対話的活動を通して、登場人物の気持ちを具体的に考えることができるようにする。 (手だて2)	
8	○4場面のかえるくんとがまくんの心情を具体的に想像する。 ・手紙が届くまでの間や、実際に手紙が届いた時のかえるくんとがまくんの気持ちを想像する。	・手紙が届く場面の会話を創作することで、登場人物の気持ちを想像できるようにする。	
9	○グループに分かれて、音読劇発表会に向けての話し合いをし、読み方や動きなどを書き込む。	・自分が表現したい部分を選び、短い言葉や記号を用いて、注釈を書くことで、自分のおもいを音読で表現できるようにする。	【主①】粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って音読劇に表そうとしているか確認する。〔態度・記述・音読〕
10	○音読劇の練習をする。	・自己評価やグループ内評価をしながら、繰り返し練習ができるような場を設定する。	
11	○音読劇を発表する。 ○単元全体の学習を振り返り、まとめる。	・互いの感じ方や考えを認め合うことができるよう、視点を示す。 ◆単元を通じた振り返りをするすることで、学習の深まりを実感できるようにする。(手だて1)	【思②】文章を読んで感じたことや分かったことを共有しているか確認する。〔発言・記述〕

7 本時の指導

(1) 目標

場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

(2) 本時の評価規準

場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。

具体的な子どもの姿	Bに至らせるための支援
<ul style="list-style-type: none"> ・お手紙のことを話してしまった、かえるくんの気持ちを想像している。 ・お手紙のことを知ったがまくんの気持ちを想像している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がまくんの言葉から、どんどん投げやりな気持ちになっていることを確認する。 ・15 ページと 23 ページの 2 枚の挿絵の表情が違うことを一緒に確かめながら気持ちの変化を捉えさせる。

(3) 展開

	学習活動 ・児童の反応 ＜目的：＞児童と共有する対話的活動の目的	◆研究に係わる手立て ・指導上の留意点 【評価】〔評価方法〕
導入 5分	1 前時までの学習を想起する。 ・がまくんはお手紙が来なくて投げやりになっている。 ・かえるくんはお手紙が届くのを待っている。 2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> がまくんとかえるくんの気持ちをそぞうしながら、なりきって音読しよう。 </div>	◆学習計画を掲示しておき、本時の学習内容や学習のゴールを意識しながら、本時の学習に入ることができるようにする。(手だて1)
展開 35分	3 学習場面を音読し、出来事や人物の行動を確認する。 4 登場人物の気持ちを想像する。 ① ワークシートに書き込む。 ② 書き込んだことを生かして音読をする。 ③ 交流する。(ペア→全体) ＜目的：考えを広げる＞ ・がまくんが早く元気になるように、手紙を書いたことを話したと思う。だから、がまくんを見ながら優しい声で読みたい。 ・「ああ。」の所は、かえるくんが自分のことを親友だと思って嬉しいから感動したことが分かるように読みたい。 5 手紙が届くことと手紙の内容を打ち明けた直後の二人の登場人物の気持ちを想像し、心の中の声として書き加える。 ・がまくんは、ぼくの親友だよ。 ・かえるくん、本当にありがとう。 6 全体交流や、心の中の声の記入を生かして音読をする。 ① ワークシートに書き込んだことを生かして、役割読みをする。 ② 全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・誰の言葉かを確認するために役割読みをする。 ・本時の話の大体の内容をつかむことができるように挿絵を提示する。 ・登場人物になりきって、読み取った気持ちを書くことができるようにする。 ・音読を工夫することで、想像した気持ちを表現できるようにする。 ◆登場人物の気持ちを考えるために対話的活動を行い、自分の考えを再確認したり広げたりできるようにする。(手だて2) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【思】 出来事や人物の行動を確かめ、様子がわかる言葉から想像を広げている。〔発言・記述・音読〕 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・全体交流で読み取った内容から、登場人物の心の声を想像できるようにする。 ・想像した登場人物の心の声を、教材文に付け加える形で音読できるようにする。 ・グループで役割音読をした後、全体で発表することで学びを共有することができるようにする。
終末 5分	7 学習の振り返りをする。	◆登場人物の行動や心情を考えることで、音読の仕方を工夫できたことを確認し、自分の音読の工夫を書くことができるようにする。(手だて1)
[期待する振り返りの例] ・みじかい会話でも、いろいろな思いがこめられていることがわかった。 ・かえるくんの気持ちを考えて、かえるくんになりきって音読することができた。		

(4) 板書計画

ふりかえり	かえるくん	がまくん	三場面後半 教材文	がまくんとかえるくんの気もちをそう ぞうしながら、なりきって音読しよう。	お手紙 アーノルド ローベル
二場面 挿絵					